

2 年	通 年	数学Ⅰ	履修形態	全員履修
			履修単位	2
科目目標			教科書	7 実教数Ⅰ 323： 高校数学Ⅰ 新訂版
1 年次後期で因数分解・平方根・2 次方程式を学んだ。これらを利用して、2 次関数・三角比の問題が解けるようにする。			副教材等	7 実教数Ⅰ 323 準拠： ステップノート数学Ⅰ
			履修条件	特になし
学習内容				
2 次関数 ・ 2 次関数のグラフをかき、2 次関数のグラフを利用して最大・最小の応用問題や 2 次不等式を解く。 三角比 ・ 鋭角の三角比において、三角比相互の基本的関係とその応用を学ぶ。 ・ 三角比を利用して図形の面積を求める。 データの分析 ・ 統計の基本的な考え方を理解し、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。				
評価方法			定期考査、出席状況、授業態度、提出物等を総合的に判断し評価する。	
学習上の留意点			授業を聞き、ノートをとる。必ず自分で問題を解いてみること。	

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）				
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標	
前 期	4	2 次関数 ・1 次関数のそのグラフ ・2 次関数とそのグラフ ・2 次関数の最大値・最小値 ・2 次関数のグラフと 2 次方程式 ・2 次関数のグラフと 2 次不等式	・放物線の性質（軸と頂点、下に凸）を理解し、基本形（平方完成した形の 2 次関数のグラフがかけられるようにする。 ・平方完成が出来るようにして、2 次関数のグラフがかけられるようにする。 ・グラフを利用して最大・最小の応用問題や、2 次不等式が解けるようにする。	
	5			
	6			
	7			
	9			
後 期	10	三角比 ・三角形 ・三角比 ・三角比の利用 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張 ・三角形の面積 ・正弦定理・余弦定理 ・正弦定理と余弦定理の利用	・三角比の意味を理解し、直角三角形の辺と角の間の基本的な関係を使えるようにし、応用問題が解けるようにする。 ・一般の三角形の辺と角との間に成立する三角形の面積の公式を導き、利用できるようにする。	
	11			
	12			
	1			
	2			
	3	データの分析 ・統計とグラフ ・度数分布表とヒストグラム ・代表値 ・データの散らばり ・相関関係	・統計の基本的な考え方を理解し、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	

学習評価の観点別規準と評価方法			
評価の観点	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	三角比、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりできる。	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現したり、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察したり、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断できる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりできる。
評価方法	学習状況の観察 ノート・問題集の記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノート・問題集の記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノート・問題集の記述 定期考査の結果

学習サポート
1 年次後期で学んだ数学Ⅰについて引き続き学習します。2 年次では、1 年次に学んだ内容を利用して「2 次関数」「三角比」「データの分析」について学習します。 1 年次同様授業時間中に演習時間を作ります。また、その時間を利用して自分で問題を解いてもらいます。